

# 結核に間違われやすい病気。 数週間せきやたんが 続くようなことがあれば、受診を



「せきやたんが続く時は、自己判断しないで受診を」と話す  
西村浩一呼吸器内科診療部長=岐阜市橋本町、朝日大  
学附属村上記念病院

## ドクターに相談

### ちよつと気になる体の悩み

急を要するわけではないけれど、ちよつと困っている体の悩みを専門の先生に相談します。

#### 今回は 肺MAC症

朝日大学附属村上記念病院  
呼吸器内科診療部長  
西村浩一さん

にしむら・こういち

1958年生まれ。京都府出身。京都大学胸部疾患研究所、京都桂病院呼吸器センター勤務などを経て、昨年10月に岐阜市橋本町の朝日大学附属村上記念病院呼吸器内科診療部長。専門は呼吸器内科。

最近、中高年の女性に「こいせきやたんが続く」「肺MAC(マック)症」という病気が増えているという。結核と間違われやすい病気でもある。朝日大学附属村上記念病院の呼吸器内科の西村浩一診療部長に肺MAC症の具体的な症状や、疑われる時の対処法などを聞いた。

#### 耳慣れない病名ですが、

西村 ● 以前からあった慢性の呼吸器感染症のひとつで、結核菌の仲間のアピウム菌やイントラセラーレ菌に感染することで起こります。結核と症状や検査結果が似ていて間違われやすい病気ですが、人から人への感染は起こりません。この細菌は土

壌や水道水などにも存在する菌で毒性は弱く、人に対して通常はそれほど強い病原性を持つ菌ではありませんが、理由は不明ですが一部の人が感染し、それが重症化すると、呼吸困難や微熱などの症状を引き起こすことがあります。菌の名前をとって肺MAC症と呼ばれています。正式には肺非結核性抗酸菌症のひとつです。

#### どんな症状が出ますか。

西村 ● せきやたん、全身倦怠感、微熱などが主な症状です。かぜやインフルエンザなどにかかっているのに、せきが数週間続く時などは、疑って呼吸器内科のある医療機関を受診してみてください。それほど頻発する病気ではありませんが、毎年800人以上の人が発症しているというデータもあります。たんを検査すると、「塗沫(とまつ)検査」が陽性になり、胸部のレントゲンで異常所見が見られるなど、結核の症状と似ていますから、昔は結核と診断されてしまうケースや見落とされてき

たケースがあったかもしれせん。現在では「3日連続して塗沫検査をする」「2回以上の培養検査」「遺伝子検査」などで、診断が可能になりました。治療せずに放置すると進行する病気ですので、安易に考えず検査を受けてください。診断がつけば、投薬を続けながら、経過を観察します。



細菌検査室で見られる結核菌(左)とアピウム菌(右)

るのは事実です。それも「ヤセ型」の人に多い。肺MAC症の患者は増加傾向にあり、特に日本では他に病気のな

中高年の女性に多いのが特徴です。浴室や台所などの湿気が原因という説もあります。

#### 新型インフルエンザが心配されていますが、インフルエンザにかかると肺MAC症が重症化する恐れはありますか。

西村 ● 私はその恐れはあまり強くないと考えています。でも肺MAC症は放置すると、ひどくなると死亡することもある病気ですので、医療機関側でも見逃さないできちんと検査して治療してほしいと思います。原因となる菌はどこにでもいる菌

ですので、予防することは難しいですが、体調を管理して自己免疫力を落とさないようにする、年1回は健康診断でレントゲン検査を受けるなど注意してください。レントゲン検査は、肺がんや肺結核の早期発見にもつながります。

#### なぜ、中高年の女性に多いのですか。

西村 ● 原因はよく分かっていません。肺MAC症の中でも、気管支拡張を伴う「小結節・気管支拡張型」にかか

